鳥取の手仕事 [第3回]

伝統の技と新たな挑戦

鳥取県の絣

弓浜絣と倉吉絣は、江戸時代から伝承されてきた伝統的な絣です。もともとは自家用として、家族のために丹誠込めて作られてきました。現在は、昔から伝わる鶴亀などの縁起の良い図柄に加え、現代的感覚あふれるデザインの絣製品も作られています。

家族への愛を織りあげて ―弓浜絣(ゆみはまがすり)―

江戸時代、弓が浜地区一帯(鳥取県西部)では、綿栽培が盛んに行われ、幕末には鳥取藩の重要な産物となっていました。ここで生産された綿は「伯州綿(はくしゅうめん)」と呼ばれ、個々の繊維の長さが短く、弾力性に富み、保温性に優れているのが特徴です。

復興栽培された伯州綿

農家の主婦たちは、伯州綿を使って出荷用の木綿織りのかたわら、自家用の仕事着、晴れ着、布団の生地を家族のために愛情込めて、織りあげてきました。その絣織りの技術は、江戸時代末期から大正時代に至るまでに最盛期を迎えます。化学繊維の発達とともに弓浜絣の産地は縮小していきましたが、近年では、着物地だけでなく、テーブルセンター、のれんなどのインテリア製品やポーチ、トートバッグなどファッション製品も作られています。茶色の天然色である茶綿と組み合わせた商品も人気です。

地方色豊かな絵柄の素朴さが新鮮で、ざっくりした風合いに落ち着いた藍染の紺と白のコントラストが美しい弓浜絣。手間と時間を惜しげもなく掛けて、妥協無く製作する匠の技と心が伝わってきます。

体にやさしいものが注目される今、天然素材で使うほどに体になじみ、着心地がよい弓浜絣が見直されることでしょう。

弓浜絣の着尺

弓浜絣伝承館研修生

全国の伝統産業産地と同じく、事業者の減少、従事者の高齢化などにより、弓浜絣も産地としての存続が危惧される状況となっています。「このままでは、弓浜絣がなくなってしまう」、「弓浜絣を後世に残していかなくては」、そんな思いの中で、鳥取県弓浜絣協同組合が主体となった「後継者人材育成」プロジェクトが、平成19年からスタートしました。現在3名の研修生が技能の修得に励んでいます。

作業に取り組む弓浜絣伝承館研修生の皆さん

精微な絵絣が評判 ―倉吉絣(くらよしがすり)―

絵をそのまま織り込んだような複雑な模様が美しい倉吉絣(倉吉市)は、江戸時代後期、稲嶋大助(だいすけ)が花鳥山水の絵絣を織り、普及させたのが始まりとされています。明治時代、船木・桑田工場から出品した絣は、諸外国の万国博覧会で受賞するなど、名声を博しました。

現在では、商業的な製造事業所はありませんが、保存会や作家として活動する人々が、昔ながらの技法や手作業で、一本一本の糸に真心込めて織りあげ、受け継いでいます。

なお、今回は一部しかご紹介できませんでしたが、多くの絣作家が活動され、個性豊かな作品を作っておられます。

絵絣が素晴らしい倉吉絣
左／寿文字くい亀松竹文　右／七宝に麻の葉

絣ができるまで

約30工程もある絣製作は、ひとつの製品を完成するのに膨大な時間と手間が掛かります。

織りあげた時に現れる図柄を計算して、糸を染め分けます。ひとつの絵柄のために、なんと約五～六千カ所の「くくり」(防染)作業を行います。

糸つむぎ → 種糸工程 → 緯糸工程(よこいと) / 経糸工程(たていと) → 製織

丁寧に絵柄を合わせながら一段、一段ずつ織り進める。

染め分けた白い部分が絵柄になる。

何度も繰り返し染める。

型紙と墨を使った種糸づくり。種糸台に糸を張り、下絵に合わせて、糸に墨をつけ、墨付け部分を括る。

分たちがやります」バッグひとつにも、作り手の数だけ個性やアイデアが発揮されています。

近年では、糸作りにも挑戦。年代物の手動くくり機械を弓浜絣事業者から譲り受け、10数人の会員が技術を習得しました。「図案をおこし、糸作りをし、織り、柄になった瞬間、とても充実感があります」と表情を輝かせます。

見学に来る地元の小学生たちに「将来、県外に出ても、倉吉にこういう絣があることを忘れないでね。あなたたちのおじいさんやおばあさんが実際に着ていたのよ」と話します。掛ける言葉に皆さんの願いが込められています。

使い込まれて、飴色になった糸車

詳しくは…

●とりネット
「とっとりの手仕事」(手仕事全般)
http://www.pref.tottori.lg.jp/teshigoto
「とっとりの工芸品」(伝統的工芸品)
http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=95598
●パンフレット「鳥取の手仕事」
(鳥取県市場開拓室発行)をご覧ください。

問合せ先　県庁観光政策課
電話 0857-26-7237

伝統の技を継承して ～倉吉絣保存会の皆さん～

福井貞子さんらが中心となり、昭和47年に保存会を立ち上げ、倉吉市の観光地、白壁土蔵群地区にある倉吉ふるさと工芸館にて、実演・展示販売。観光スポットとして人気

倉吉絣保存会では、約30名のかたが倉吉絣を製作しています(賛助会員を含め約80名)。

「家事をしながらの技術習得や作品づくりは大変だけど、楽しいです」と笑顔で話す皆さん。一反(長さ約13m)の着尺を織るのに20日～1ケ月程かかり、労力に見合った採算はとれず、根気と情熱がないと続けられない仕事です。

「バッグや座布団など加工品がよく売れますよ。仕立てもすべて自

ショルダーバッグ

倉吉市の木、椿の花柄の座布団